

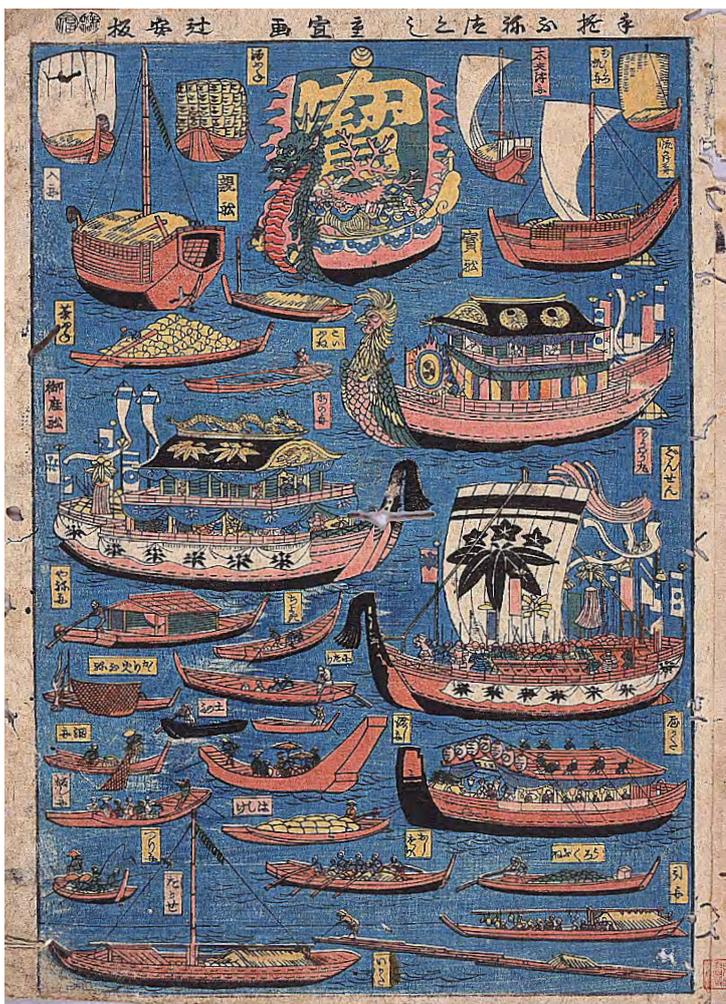
近世関東の川船は どのように支配されたか

参加費無料

どひまさたか
■講師: 土肥 雅高

2026年3月21日(土) 14:00~16:00

Zoomにて開催 (ルームオープン 13:30)

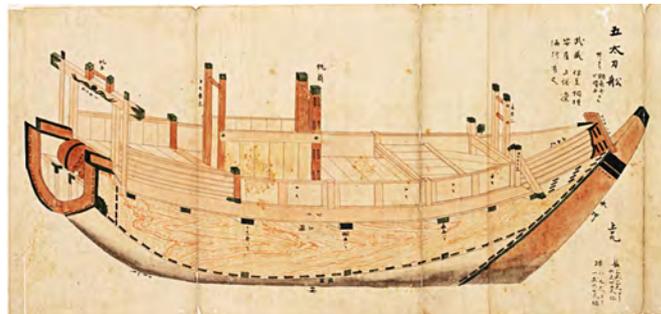


二代歌川広重「手遊ふねつくり」(国立国文学研究資料館所蔵)

江戸幕府のお膝元、関東において物流の中心は川船であった。把握されているだけで関東に3000艘以上も存在し、時に海にもこぎ出すこの川船に対し、幕府は川船役所という役所を通じて船ごとに税を賦課してきたことは既に明らかにされてきた。

一方で、この税がどのような由来を持ち、どのように賦課されたかという具体像は十分明らかにされてこなかった。本報告では、川船役所側の史料に基づき、役所の全体像を明らかにしていく。その上で、この税の性格を検討し、近世の川船の幕府における位置を描き出していく。

■土肥 雅高(どひまさたか) 日本海事史学会会員
1999年生。東京大学大学院博士課程1年。
修士論文論題は「近世関東水運支配の様相と展開」



五太力船の船容(船の科学館叢書7「船鑑」より)

- 関心をお持ちの方ならどなたでもご参加いただけます。メールでお申し込みください。
※希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。
お申込みいただいた方には3月18日(水)までにご連絡いたします。
- 会員にはメールでご案内をお送りしています。
メールが届いていない方は、右の申込先までお問合せください。

- 申込〆切: 2026年3月17日(火) 正午(12:00)
- 申込先: kaijishi.web@gmail.com (担当: 大野)
メールの件名を「日本海事史学会 Web 例会申し込み(非会員)」として、本文にはお名前をお書きください。

[今後の例会 開催予定日: 4月25日(土) Web・5月23日(土) Web / 総会@駒場 6月27日(土)]

日本海事史学会は、海事一般に関する歴史・法律・民俗・水産・考古・船舶・航海・海運など、海事史だけにとどまらずひろく海の人文、社会科学等あらゆる分野に関心を持つ学界や在野の研究者の方々の交流をはかる総合研究の“場”です。

【主な活動】専門学術誌『海事史研究』の発行(年1回) / 総会(年1回)・例会(8月と総会開催月を除く年10回) など

